

# 平成28年度学校自己評価システムシート (県立鳩ヶ谷高等学校)

s28

目指す学校像	総合制高校として3学科の特色を生かし、生徒一人一人が主体的に学ぶ力を育成する学校
--------	--

重点目標	1 教育課程や授業の工夫を図り、生徒の学習意欲を高め、確かな学力を育成する。 2 学校全体で、挨拶励行や整容指導などに取り組むことにより、生徒に自らを律する心を育み、基本的生活習慣の確立を図る。 3 3年間を見通した進路指導により、生徒に目的意識を持たせ、進路実現を図る。 4 開かれた学校づくりを推進することにより、保護者・地域の信頼に応える。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	11名

学 校 自 己 評 価					年度評価 ( 2月 6日 現在 )	
年 度	目 標	評 価 項 目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	【現状】 朝読書の取組などにより、落ち着いた雰囲気の中で授業は行われている。 昨年度の2回のアンケート結果において、生徒の授業、定期考査、家庭学習への取組状況や授業への達成感、教員による分かりやすい授業への工夫について、改善する余地がある。 【課題】 早期に生徒一人一人に明確な目的意識を持たせるために、教員の指導力を向上させるための組織的取組が必要である。	○生徒の学習意欲を向上させるため、組織的に指導する。  ○生徒の学力を向上させるため、体系的な教育課程を意識した組織的な支援体制を構築する。	①授業規律を確保し、学習意欲向上を目指す。 ②各教員が自己評価シートに学習意欲向上のための具体的な授業改善策を設定し、共有する。 ③各種検定等の取得を活用して学習意欲を高めるとともに、検定に頼らない学習意欲向上策を検討する。	①自ら準備しチャイム始業できたとする生徒の割合90%以上 ②授業が分かりやすいと思う生徒の割合70%以上  ③各種検定取得に意欲的に取り組む生徒の割合80%以上	①高校生活に対して自己管理できていると答えた生徒の割合は86.2%であった。 ②授業が分かりやすいと答えた生徒の割合は65.4%であった。 ③各種検定取得に意欲的に取り組む生徒の割合は、園芸デザイン科が71.2%、情報処理科が90.2%、普通科が36.5%であった。  ①授業で達成感を感じる生徒の割合は47.4%であった。  ②8月22日に他校教員も含めた教員研修会を実施し、複数学科併置校における評価評定の在り方を研究し、来年度に向けて着手することができた。	B  B
2	【現状】 日常の生徒指導により、時間遵守・挨拶等の基本的な生活習慣が整いつつある。 【課題】 生徒が自らを律する心を育成する必要がある。	○生徒の自律心を育成するために、生徒指導部を中心として全教職員で取り組む。	①基本的な生活習慣を確立するために、挨拶励行、身だしなみ指導を徹底する。 ②交通マナーを遵守させる。 ③豊かな学校生活の実現に取り組む。	①概ね取り組んだ生徒の割合80%以上  ②交通事故件数の減少 ③充実した学校生活だと思ふ生徒・保護者の割合90%以上	①基本的な生活習慣の確立に向け取り組んだ生徒の割合は男子が75.3%、女子が64.4%であった。  ②交通事故は12件であった。 ③85%の生徒保護者が充実していると回答している。	B
3	【現状】 きめ細かな進路指導により、進路決定者は約9割と成果を上げている。 【課題】 進路指導と生徒指導の連携・充実を進め、生徒の進路実現に取り組む。	○進路指導部を中心とした学年横断的な進路指導体制を構築する。	①『進路ノート』を活用し、1年次から3年間を見通した進路指導を行い、適切なキャリア意識を持たせる。 ②進学希望者の進路実現のため、1年次から保護者への意識啓発と生徒の学力向上の具体的な方策に取り組む。 ③生徒・保護者のニーズを把握し進路実現に結びつく求人企業を確保する。	①進路指導に対して意欲的に取り組んだ生徒の割合80%以上  ②各学年が、卒業までの成長を見通した進路指導体制を構築できたか ③進路実現に結びつく就職企業訪問が行われたか	①76.5%の生徒が意欲的に取り組んだと回答している。  ②保護者の啓発を含めた進学指導を実施し、80%の保護者が良く話し合うようになったと回答している。 ③進路指導専事を中心として就職企業訪問に取り組んだ。	A
4	【現状】 保護者や地域に学校ホームページ(HP)や広報紙の配布等を行い、一定の理解・協力を得た。中学生・保護者への学校説明会等に精力的に取り組んだが、生徒募集に苦戦した。 【課題】 中学生の学校理解を進めるため、保護者・地域との信頼関係を構築し、情報発信をさらに充実させる必要がある。	○鳩ヶ谷高校の教育活動を積極的に広報する体制づくりに取り組む。  ○保護者との連携を深める「保護者力」向上に向けて取り組む。	①平成29年度からの新教育課程を周知させるために、学校説明会や体験授業、授業公開、部活動公開の内容を工夫する。 ②学校HP・学年だより・広報紙(伝書鳩)、メール配信システム等をとおして、学校の教育活動を積極的に発信し、保護者・地域・卒業生などに鳩高ファンを増やす。  ①子供の進路や自律心育成など子育てに役立つ情報を学校HPに「親学」として発信する。 ②学校評議員会・学校評価懇話会、PTA理事会・三者面談などで出された学校に対する意見・要望等に誠実丁寧に対応し、約束したことがらの実現に努める。	①参加中学生とその保護者の満足度割合90%以上  ②概ね肯定回答の割合85%以上	①学校説明会等の中学生の満足度は90%を超えている。  ②メール配信システムは1月までで10回であり、教育活動の広報に関しては、概ね肯定的回答である。  94.3%の保護者が入学をさせて満足していると回答し、87.7%の保護者が丁寧に対応していると回答している。	A  A

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成29年2月10日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>○生徒・保護者アンケートでは、6月に比べると12月は慣れがあるのかもしれないが、前向き結果が出てきていない。中だるみをどのように乗り越えるのかが大切だ。自学自習ができる個別動画コンテンツがあるのには驚いたが、時代にマッチしている。新規に導入するスタディサプリを授業と連動させると効果があるのではないかと。○自分の子供が在籍していた頃よりも、学校評価システムシートの方向性が明確になっている。生徒アンケートの数値が低下したのは慣れがあると思う。自分の子供の経験からすると、できるだけ早期に目標を持たせることは大切だ。目標を持って授業態度も変わってくると思う。高校に入学してから早期に考えられれば、自覚が出てくるはずである。</p> <p>○保護者の立場からすると、整容指導は強く求められている。自信を持って取り組んでもらいたい。最初の1年は大変かもしれないが、3年後には大きく変わっているはずだ。○スカート丈は、自分の娘も高校生の時に注意してもなかなか直らなかったが、娘が「自分が母親になって高校生の時に注意されていた意味がわかった」と言っていた。大変だと思うが、粘り強く指導してもらいたい。</p> <p>○「進路ノート」があまり活用されていないようだ。1年生の進路未定者が39%にのぼっており、将来について考えさせる早めの仕掛けが必要だ。○進路指導体制のフレームづくりが大切だ。平成29年度からの取組を考えると、従来の取組にしばられない柔軟な進路指導体制づくりが不可欠だ。進路多様校で大変だと思うが、進学指導には最近増えている再任用教員の経験なども活用して、早期に新体制を構築してもらいたい。</p> <p>○保護者に学校の通知文が届かないという声を聞く。学校ホームページやメールの活用など工夫があるとよい。 ○鳩高ホームページが見づらい。緊急連絡が見づらい。写真が少ない。 ○生徒の帰宅時間が遅いというアンケート結果がある。6月にも指摘したが、生徒の安心・安全の観点から、教員の多忙化解消の観点からも、部活動を含めた完全下校時間を設定する必要がある。 ○今回のような生徒の声を聞く場を設定するとよい。生徒の声をしっかりと受け止めて改善に取り組んでほしい。</p>	